

今を精一杯生きることの大切さ

「合宿」この言葉を聞いて皆さんは、何を連想しますか。都会の暑さを避け、山や川に囲まれた自然豊かな環境の中で、仲間と共に寝食を共にし、ひたすら一つのことに打ち込む、これらすべては、共通のイメージではないでしょうか。

日々の生活を振り返ると、部活動中であっても宿題や塾、課題提出などが頭をよぎったり、家に帰ればYouTubeばかり見ていたり、ついつい寝坊して朝食を抜いてしまったりすることを思えば、合宿は、練習に夢中になれるだけではなく、健康な生活を取り戻すのにも有効なのかもしれません。

また合宿は、練習中はもちろんのこと、朝から晩まで、眠っている時も、明日も、あきっても、1日中、部活動のことだけを考えて過ごす「部活動漬け」となる非日常の連続で、明日のことで悩む必要がなくなるでしょう。練習に集中できる環境は、今日という日を粗末にせず、過ごせた満足感によって1日の大切さを感じる貴重な機会にもなるはずです。

そもそも1日1日を大切にしなければ、希望に満ちた明日などはありません。少し大げさかもしれませんが、十年、百年、千年、万年の始まりとなる大切な1日なのに、とかく人は、まだ来ない明日のことを考えて思い悩み、大切な今日一日を無駄にしてしまうことがあります。

その逆に、明日があるかどうかは誰も分からないのに「明日やればいい」「明日からやる」など、今日の今を軽く考える人は、一生を無駄にしているのと等しいでしょう。案の定、次の日になっても予定通りとならず「昨日やっておけばよかった」と後悔するのが世の常です。



この夏、私は、時間の許す限り東京を離れ、各部活動の合宿へ足を運びました。猛暑、酷暑などが無縁の避暑地であったり、潮風が心地よい海浴いであったりしました。大きな西瓜を両手に、はやる気持ちを抑えながら元気な声が漏れ聞こえる練習会場へそっと足を踏み入れると全力で練習する生徒の姿、必死に生徒と向き合う顧問の姿があり、私はあっという間に人いきれの熱気に包まれました。気合いだ！根性だ！自分に負けるな！といった言葉が通用しなくなった時代、自己のパフォーマンスを最大限に発揮させるためには、師の言葉に「なにくそ！」と自分を奮い立たせる「心の強さ」が必要となるはずです。顧問の熱い激が飛ぶ会場には、歯を食いしばってでも前を向く生徒の汗が学びの匂いとなって滴り落ちていました。

私自身、58年の歳月を生きてきましたが、ついつい仕事を優先するあまり、「今」を大切にしていないのではないかと感じます。生徒がひた向きに努力している姿を見て、輝かしい人生とは、どこか遠くにあるのではなく、今あるこの一日を、この一瞬を精一杯生きることなのではないかと痛感し、会場を後にしました。

令和5年8月